

# 原野谷学園

新たな学園づくりに  
御意見をお寄せください。



## 新たな学園づくり地域検討委員会

だより No.6

平成30年 10月 1日発行 発行・編集 掛川市教育委員会

### 検討委員会での検討結果は「小中一体校の整備」

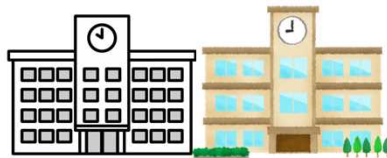
昨年の12月から、原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会では、掛川市が今後進めていく小中一貫教育にふさわしい学園・学校づくりの検討を行ってきました。9月20日に開催された第6回検討委員会で、小学校と中学校を同じ校舎とする「小中一体校の整備」を提言することが合意されました。

#### 小中一貫教育推進のための施設形態



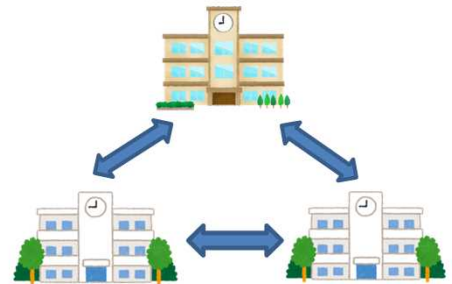
一体型  
小中学校が一つの校舎に

#### 検討委員会案



#### 隣接型

小中学校の校舎を同一敷地又は隣接する敷地に別々に設置



#### 分離型

現状の学校配置と同じ  
児童生徒数が減少した場合には、統廃合も考えられる

#### 検討のポイント

- ①小中学校の児童生徒数の減少
- ②原野谷中学校の校舎の老朽化
- ③現在、原野谷学園で試験的に行っている小中一貫教育で大きな成果が出ていること
- ④原野谷地区全体でまちづくりを考える必要性
- ⑤掛川市の将来的な財政のこと

↓  
検討委員会では、原野谷地区の子どもたちの未来にとってどんな学校施設が望ましいのかを第一に、多角的な視点から検討を行ってきました。



今後の学園づくりに皆さんの御意見をお寄せください。

御意見は事務局 または 検討委員会の委員の方へ



事務局

掛川市教育委員会 教育政策室

〒436-8650 掛川市長谷一丁目1-1

電話:0537-21-1109 FAX:0537-21-1222

E-mail:kyoikubu@city.kakgeawa.shizuoka.jp

## 検討委員会での検討経過

### ◎第1回 (H29.12.11)

- ・検討委員会の目的等の確認
- ・小中一貫教育が求められる背景（市教委から説明）
- ・掛川市が目指す小中一貫教育（市教委から説明）

#### 【まとめ】

- ①学園内での児童・生徒数の減少が深刻な状況になりつつある。
- ②中学校の校舎が老朽化している。建て替えにあたっては、県内のモデルになるような学校づくりをしていく。
- ③原野谷地区という大きな視点で考える。

児童生徒数の推移（原野谷学園）

学校名	平成元年	平成30年
原谷小	394	208
原田小	185	71
原野谷中	285	121

学校施設の経過年数（平成30年現在）

学校名	校舎	体育館	プール
原谷小	46年	36年	43年
原田小	37年	36年	44年
原野谷中	56年	7年	46年

校舎は主要校舎を対象とした。

### ◎第2回 (H30.1.29)

- ・第1回地域意見交換会報告
- ・原野谷学園における小中一貫教育研究の状況について（原野谷中学校長の説明）

#### 【まとめ】

- ①原野谷学園で現在取り組んでいる小中一貫教育には大きな成果が出ている。
- ②施設一体型を整備する場合の道筋や開校までの年数が知りたい。

### ◎第3回 (H30.3.14)

- ・原野谷学園の現状及び小中一貫教育を推進するための学校施設について
- ・学園内の学校施設の在り方について

#### 【まとめ】

- ①小中一貫教育、施設に対して地域住民の意識や認知度を高める必要がある。
- ②施設面では、ナイター設備、市民に開放された図書館、地域住民との交流スペース等新しい機能を盛り込んでいきたい。
- ③学校施設に隣接して宅地造成を行う等、地域のまちづくりを考えていく必要がある。

### ◎第4回 (H30.5.8)

#### 施設タイプ別メリット・デメリット

	メリット	デメリット
施設一体型	<ol style="list-style-type: none"> <li>①小中一貫教育を推進</li> <li>②児童生徒の交流の広がり</li> <li>③交流にかかる移動時間の軽減</li> <li>④新しい教科等への対応</li> <li>⑤中1ギャップの緩和</li> <li>⑥教育の質の向上</li> <li>⑦地域の関わり</li> <li>⑧建設費用・維持管理費の効率化</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①6年生のリーダーシップを発揮する場の減少</li> <li>②上級生の下級生への影響</li> <li>③発達段階に応じた施設設備の工夫</li> <li>④施設一体型校舎等を建てる場所</li> <li>⑤学区の広がりによる登下校等の負担</li> <li>⑥教育カリキュラムやPTAの組織等の再編制</li> <li>⑦中学進学への期待感</li> <li>⑧地域の学校への思い</li> </ol>
施設分離型	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学校の歴史の維持</li> <li>②校舎や通学等変わらない環境</li> <li>③中学への進学（新しい環境）</li> <li>④人間関係の密接さ（少人数学級の場合）</li> <li>⑤子どもの変化への気付き（少人数学級の場合）</li> <li>⑥きめ細かい教育（少人数学級の場合）</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒数の先細り（複式学級等）</li> <li>②教育活動の限定</li> <li>③人間関係の固定化</li> <li>④建設費用・維持管理費の増大</li> <li>⑤交流活動に対する時間や移動手段の非効率さ</li> <li>⑥教員配置の困難さ</li> </ol>

- ・施設タイプ別のメリット、デメリットについて（グループワーク）
- ・多機能型、複合施設の在り方や要望について

### ◎第5回 (H30.6.29)

- ・掛川市における公共施設等の管理の方針（市公共施設マネジメント室長の説明）
- ・原野谷学園における学校施設の方向性について

#### 【まとめ】

- ①財政的には厳しい状況であるが、補助金等を活用して、一体校を建設する可能性はある。
- ②近隣の地区を加えたらどうかという意見があったが、この委員会としては原野谷地区の方向性をまず固める。
- ③9年間を見据えた子ども達の未来を考え、施設一体型の新しい学校づくりを目指す。
- ④保護者や地区住民への周知活動の工夫が必要である。

### 掛川市の公共施設管理の考え方

#### 公共施設の管理方針

今後、施設の維持・更新に多額の費用が発生することが見込まれる一方で、人口減少による税収減等によって十分な費用を確保できないおそれがある。

- ①保有量の適正化
  - ②長寿命化と安全確保
  - ③運営管理の適正化（経費削減、官民協働）
- 学校施設についても聖域ではなく、上記の考え方の中で適正に管理する必要がある。

### ◎先進地視察 (H30.8.21)

- ・浜松中部学園を視察



浜松中部学園校長から説明



広い昇降口 多目的に使用が可能

### ◎第6回 (H30.9.20)

- ・原野谷学園における学校施設の方向性について
- ・検討委員会報告書の検討
- ・学校施設についての要望等



検討委員会として、**小中一体校の整備**を提言することで合意

### ◎今後の計画

- ・第7～9回検討委員会 提言のとりまとめ、提出

### 原野谷学園での小中一貫教育の様子



原野谷中・原谷小合同授業



中学校教員による小学校外国語授業



## 第2回地域意見交換会を開催しました

第2回目となる地域意見交換会を、8月24日 原野谷中学校で開催し、177名の方に御出席いただきました。たくさんの方の御出席、ありがとうございました。

意見交換会では、市教育委員会の担当者から、これまでの委員会での検討内容について報告を行った後、参加者の皆さんとの意見交換が行われました。

御意見の一部を紹介します。

- 基本的には小中一貫教育に賛成し、形としては一体型にならざるを得ない。子どもの視点で見れば大きな集団の中で時には揉まれることも必要である。
- 図書館や防災、学童保育等の施設について、安全面を考慮した上で地域住民が学校に入りやすいハードウェアを整えていただきたい。
- 一体型になれば地区に学校がなくなり、農協も駐在所もなくなるという大変過疎的な地域になりつつある。地域住民との関わりのある教育を本当に進めてほしい。
- 小中一貫教育を進める上では、分離型を基本に進めるべきである。今、この地域の中でいかに子どもを増やすかが第一である。一体型にすると原田地区はつぶれてしまう。
- 小学校がなくなるというのは、地区のシンボルがなくなるという後ろ向きではなく、人口減少の中で新しいものを作り、新しい取組をしていくという新たな方法で取り組む必要がある。ここに掛川一の静岡一の小中一貫校をつくる、魅力あるものを作ることで、若い人たちが原野谷にとどまると思う。
- 若い人たちに、この会を動かしてほしい。
- 地区のみんながこの話を知っているのか、まずそこではないかと思う。

意見交換会の詳細は、掛川市のホームページに掲載されていますので、こちらも御覧ください。

原野谷学園新たな学園づくり

検索



## 検討委員会からの提言後の流れ

検討委員会からの提言

↓  
市・市教育委員会が原野谷学園の学校施設の整備方針を決定する。

→ **一体型** の施設を整備する

↓  
整備基本構想の策定（1～数年）

↓  
基本設計（約1年）

↓  
実施設計（約1年）

↓  
工事（1年半～数年）

↓  
一体校開校

学校開校準備会

→ **分離型**（現状維持）

必要に応じて

- 校舎の補修
- 長寿命化もしくは建て替え

○児童・生徒数が減少した場合には、小学校同士、中学校同士の統廃合を検討することも。  
○市の財政状況を考えると、今後、それぞれの学校単独での施設の建て替えは難しい。

